

Mランドニュース Vol.155

丹波ささ山校 令和2年2月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県丹波篠山市池上569
TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 井本 徹
<https://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

今月の言葉

私たちは成長するために生きている。お客様も成長を求めてお越しになる。その喜ぶ顔を見るのが私たちの仕事です。

平成19年9月12日

小河 二郎前会長 弊社講話より

よい年を願って

変チーム 前川 昂希

今年是全国的な暖冬と言える陽気で、正月らしさを感ぜられなかったのではないのでしょうか。

そんな中、一月五日(日)、少しでもお正月の雰囲気を感じていただくとうと、ゲストの皆さまと恒例の「お餅つき」をしました。

蒸したもち米の香ばしい匂いがたち込めると、ロビーで勉強中のゲストをお誘いし、お一人づつ交代してお餅をついていただきました。

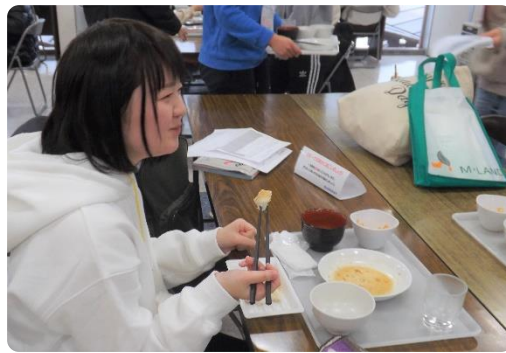


もっと腰を入れて！！

今年はずべての方がお餅つき初体験で、杵の持ち方と臼にお餅をつくポイントを説明しながらの、言わばちょっとした「餅つき教習」となりました。

毎年、おなじ方法でお餅をついていますが、その年の個性が出てくるのも楽しみの一つです。

学校は冬休みとあって、ホーム生はもちろん、通学のゲストもたくさん来られていて、多くの方々に、つきたてホヤホヤのお餅を食べていただきました。



つきたてのお餅 美味しいね！！

召し上がっていただいた皆さまからは、「やわらかくておいしい」や、「お餅をついてくださったゲストは、「初めての体験で、すごく楽しかったです」という声を聞くことができ、新年の幕開けを気持ちよく迎えることができました。

新・そうじの力

平成二十六年から続く「そうじのカプロジェクト」。リフレッシュのため二、三年毎にメンバーを入れ替えて、昨年十二月一日より、新し

いチームでそうじの力に取り組んでいます。

ねらいはマンネリ化防止と新しい視線を取り入れること。しかし、元の取り組み状況をj知ることには大切で、一名、ないし二名は残留してもらいました。

各班で培った手法を、新しいチームに持ち寄ることで効率上がり、何より空気が変わって取り組む意識が高まったのは確かです。

一月十七日(金)、株式会社ささ山校にお招きし、リーダー研修会を行いました。



小早氏のお話は、目からウロコです

各班の取り組みに対し他のリーダーからの質問や、小早氏からアドバイスをいただきます。

全員参加のこの取り組みですが、業務の都合で参加出来ないときのため、班内のグループLINEで進捗状況を共有している班もあり、目的の一つ「楽しみながらやる」を実践しています。

刺激を受けることで、「切磋琢磨」と「アイデア」が生まれてくるようです。

私とMランド

顧客チーム 菊池 邦彦

仕事と想っていた私は、Mランドのすべてが「變の心」を基に動いており、「思いやり」、「譲る」をゲストに伝えることの大切さを旨として、これからもゲストとともに成長してまいります。

上向き童子

Mランドには、心に呼びかけるような石像が随所に佇み、教習所に来られるゲストを温かく見守っています。

その中でも特に異彩を放つ像が「上向き童子」です。

この童子、地元紙丹波新聞社の記者の目にも留まり、令和二年一月一日発行の、「丹波不思議探訪」の一つに紹介されました。



十五年前に小河二郎前会長が、「上を向いてがんばりましょう」と設置されたものです。

Mランド内外に見られる小河前会長の「思い」や「感性」は、こうしたかたちとなって、今なお私たちの背中を押してくださっています。

手話研修始まる

手話研修担当 前川 昂希

今年の最初の手話研修を一月十九日(日)、教習開始前の四十五分間行いました。この日は新年最初とあって、新年の挨拶とお正月にまつわる会話を、手話で学びました。



この日のテーマは、テンポよく

研修はいつも真剣に取り組んでいます。しかし、どこかロボットのような固さと、何回も指導を受ける男性職員が多い中、女子職員の流暢な手話に篠山ろうあ協会大内和彦先生は大絶賛。「知らないことを学ぶ難しさ」は、運転を知らないゲストとも同じであることを、手話とともに学びました。そんなゲストの身になって、今年も私たちはゲストと向き合っています。

Mランドウォッチング

この一月も、地元をはじめ、全国から多くのゲストにお越しいただきました。

朝は、ボランティア活動から始まり、運転や学科は目的を持って取り組んでおられます。



掃除から学ぶ「気付き」は運転にも

入所されたゲストがまず目にするのがロビーで黙々と自主勉強をされているようです。



静かに時間は流れます

誰が言うでもなく、これらのようすが受け継がれています。

お客様と向き合う

私がこの仕事をしていく中で、先人よりいただいた多くの「言葉」を糧として取り組ませていただいております。

その中で私の根幹にあるのが、株式会社タニサケ 松岡浩会長が出版されている「こころの小冊子」の中の一冊、「生きる」―後ろ姿の教育を―(平成十五年十月二十四日初版)の一節、「無上意」を、皆様と共有したく、ご紹介させていただきます。

無上意

最後に仏典の中にこんな言葉がありました。「無上意」ということです。これ以上は無いという行為のことです。例えば、会社に電話がかかってきたら、これ以上はないというぐらいいい声で応対をする。会社へおみえになった方を最高の笑顔とあいさつで迎えるということですね。

最後に「無上意」のお手本ともいえるべき文を読みます。サービスという題であります。「ある人が苦楽をともにしてきた妻を定年前に亡くし、

冥福を祈るため、四国八十八か所の巡礼を終え、最後に立ち寄った高知空港の日本と土佐名物カマスの姿寿司を一人前注文した。加えて「申し訳ありませんがグラスは二つで」と注文を受けた若いウエートレスは、「どうしてグラスが二つ必要なのか」と不思議に思いながらも指示に従い、先ずビールとグラス二つを出した。

すると客は女性の写真をテーブルの中央に置き、その前のグラスにビールを注ぎ乾杯をした。ウエートレスは、お客様は亡くなった奥様の写真を持って巡礼をしてきたのだらうと思った。そこで箸と箸置きを二組、小皿を二枚持って行った。

そのあと、ふるさとへ帰ったそのお客さんからのお店への手紙には次のように書かれていた。「四国への旅には家内の写真と一緒に出かけ、食事の時には一緒にビールを飲みました。しかし、お箸と小皿を二人分出していたのはお宅の店が初めてでした。驚きました。感動で

体が震えました。帰りの飛行機の中では涙が止まりませんでした。本当にありがとうございます。うございました」

これは無上意のお手本であります。「無上意」という言葉を思い出して、お客様に、周りの人にもいいものを差し上げる、そんな生き方をしようではありませんか。時間がまいましたので終わりにさせていただきます。ご清聴まことにありがとうございます。ございました。

教習をしていると、「言ったのに」、「何でこんなことができないんだ」、「何回言えば分かるんだ」、など、時にはこのような言葉が私の頭をよぎることがあります。

そんな時、この「無上意」に私の思いが戒められるのです。一人のゲストには、誰より

も我が子を思うご両親、ご家族があり、究極の願いは、「事故を起こさない運転者」、「幸せになってほしい」です。

一人ひとり個性の異なるゲストの心に届く「無上意」の教習が求められます。「ウエートレス」と「インストラクター」。仕事は違っても、お客に向き合う姿勢は同じでなければなりません。(徹)

Mランド丹波ささ山の皆様
短い間でしたが、お世話になりました。
みなさんととても優しく、ご飯はとておいしくて毎日楽しみでした(^_^) 最高の思い出を作ることができました!! ありがとうございます(^_^)/
卒業してもずっと安全運転、優しい心を常に心がけたいと思います!!
本当にありがとうございます。
橋本 ころろ 様



卒業生から嬉しいお手紙をいただきました

今月のありがとうカード